

第29回森と花の祭典「みどりの感謝祭」

感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり



毎年4月15日から5月14日までは、多くの人たちに緑について理解と関心を高めてもらおうともうけられた「みどりの月間」です。

森と花の祭典—「みどりの感謝祭」は、みどりの月間の期間中に実施される全国各地の緑に親しむ各種緑化行事の締めくくりとして開催しています。

今年は、令和の新たな時代がスタートして間もない5月11日に東京都千代田区のイノホールにて式典を開催するとともに、5月11日、12日の2日間にわたって東京都日比谷公園を会場に式典併催行事の「みどりとふれあうフェスティバル」を開催しました。

今年29回目を迎えた「みどりの感謝祭」式典には、本祭典の名誉総裁になられた眞子内親王殿下の御臨席を賜り、衆議院議長、参議院議長など多数の関係者の方々に御出席いただきました。

東京消防庁音楽隊の演奏と杉並区立桃井第五小学校合唱団の合唱のプロローグにはじまり、開会宣言、高野農林水産大臣政務官の主催者代表挨拶に続いて、眞子内親王殿下からお言葉を賜りました。

続いて、みどりや森林に関して顕著な功績のあった方に贈られる「みどりの文化賞」の顕彰、地域の環境美化や緑づくりに取り組む緑の少年団、花いっぱい運動の代表に対する苗木と花の特別贈呈、山火事予防ポスター用原画入賞作品の表彰を行いました。

式典終盤では、令和2年全国植樹祭開催地(島根県)の北三瓶^{きたさんべ}中学校緑の少年団の代表が「私たちは、豊かな自然に感謝する気持ちを忘れず、心をこめて緑を育て、未来に引き継いでいきます」と誓いの言葉を述べました。

また、「みどりとふれあうフェスティバル」は、よい天候に恵まれ、森で遊んだり癒やされる「体験プログラム」や、森の恵みを「食べて楽しむプログラム」、森のことを楽しく学べる「ステージプログラム」、そして森づくりや木づかいに取り組む全国の企業・NPO等の展示や農山村の特産品の販売など、子供から大人まで楽しめる盛りだくさんの内容に、家族連れをはじめ多くの人で賑わいました。